

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人浜松医科大学

1 全体評価

浜松医科大学は、優れた臨床医と独創力に富む研究者の養成、独創的研究及び新しい医療技術の開発の推進並びに患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たすことにより人類の健康と福祉に貢献することを目指している。第3期中期目標期間においては、地域社会に貢献できる医師・看護専門職の養成及び世界に発信できる研究者の育成、光技術と他の先進的技術の融合による新しい医療技術の開発推進、地域医療の中核病院として高度で安心・安全な医療の提供及び地域社会のニーズと個々の病院機能に応じた医療ネットワークの構築による地域医療の充実、光技術等を活用した特色ある研究を基盤とした実用化開発の推進等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、光先端医学教育研究センターにナノスーツ開発研究部を設置し体制整備をするなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 平成29年4月に、光先端医学教育研究センターにナノスーツ開発研究部を設置し、外部共同研究機関とMTA（Material Transfer Agreement）を締結し、ナノスーツ法による電子顕微鏡観察キットの提供を行い、ナノスーツの技術の利用促進と技術改良を進めているほか、静岡大学との共同大学院「光医工学共同専攻」に、大学の機能強化の一環として医療機器開発分野の専門性の高い教員（1名）を採用する目的の予算を獲得し、メディカルデバイスデザイン分野（ニーズに合わせた着想から、市場分析、設計、機能評価・検証までをトータルにコーディネート）の強化を行い、光医工学分野における産学官の連携による地域イノベーションの創出を加速させるための体制を整備している。（ユニット「光医学教育拠点形成事業」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 年度計画を著しく上回る目標の達成

年度計画【32-1】に関して、平成29年度における承継教員の年俸制適用率が17.8%となっており、年度計画に掲げる目標である「10%を維持する」を著しく上回っていると認められる。

○ 男女共同参画の取組

多様な保育ニーズに応えるため、病児・病後児保育室「ふわり」を開設し、大学の全職員・大学院生の生後6ヶ月から小学4年生までの児童が利用可能となっており、附属病院小児科との連携により、安全・安心な保育環境を整えているほか、女性医師支援センターに専任医師が1名配置されたことで、これまで行ってきた出産後の復職支援やキャリア形成支援がより充実したものとなり、加えて県の委託を受けて「ふじのくに女性医師支援センター」を設置しており、県内の医療施設や大学の各診療科とネットワークが構築されたことで、幅広い復職プランの提案が可能となっている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 産学官の連携による地域イノベーションを創出する体制の整備

「ナノピタ（生活アシスト手袋）」について企業と共同で製品化を行うとともに、医療系の産学官連携リスクマネジメントについて、東海北陸地区の協力校として、9機関における個別事例、各種情報等を収集し、組織を超えて共有するネットワークを構築するほか、「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」において、海外を拠点として活動する専門家2名を事業プロデューサー及びビジネスプロデューサーとして招聘し、基盤構築プロデューサーを含めた3名の専門家集団が事業をけん引する体制を確立し、海外への展開を大きく視野に入れた本格的な活動を開始している。

○ 浜松市との包括協定による地域との連携の強化

浜松市と教育、学術研究、健康・福祉及び産業振興等の各分野において相互に協力する包括協定を締結し、医療サービス、イノベーション創出等地域社会の貢献等に寄与していく上で、より強固な関係を構築することができているほか、浜松医科大学と浜松市とドローン研究開発会社で医療分野での小型無人機と人工知能の活用に向けた「浜松ドローン・AI利活用協定」を締結しており、今後、災害時を想定した山間部地域での医薬品搬送等の活用を目指していくとしている。

附属病院関係

(診療面)

○ ハイリスク分娩の受入強化等による周産期医療体制の充実

大学病院機能の役割としてハイリスク分娩等を積極的に受入れた結果、診療報酬請求上のハイリスク分娩管理加算件数も高水準を維持し、また、新生児集中治療室（NICU）の新入院患者数は過去最高の199名（過去3年平均：164名）となるなど、周産期医療体制の充実が図られている。

(運営面)

○ 病院長主導による手術室運用の見直し

病院長主導で手術室の手術申込み締切りについて1週間前締切りから2週間前締切り制度のルール見直しを行い、術日までにキャンセルが発生した場合、キャンセル枠に臨時手術を入れることで、空き時間の有効活用と手術室の弾力的運用を進めた結果、手術件数が7,121件（対前年度比594件増）となり、病院経営基盤改善の強化につながっている。